

平成26年度 佐野小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

5月29日(木)に開催された「佐野小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、佐野小校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
佐野自治会	スポーツ推進委員会	佐野小学校
見晴台自治会	民生委員・児童委員	地域包括支援センター
環境美化推進委員会	伊豆佐野保育園	佐野見晴台子ども会
保健委員会	消防団第5分団	

※当日参加者 16名

アンケート：分野ごと最も話し合いたいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①災害時の連絡体制について考えよう！・・・・・・・・・・1人 ②防災意識を向上させ、新しい人材を育成しよう！・・・・7人 ③要援護者をどのように助けるか？・・・・・・・・・・4人 ④現役世代や役員が不在時の災害対策を考えよう・・・・3人 ⑤その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1人
地域の連携	①佐野と見晴台の協働・協力を進めるには？・・・・・・10人 ②子どもや若い世代が楽しめる取組みとは？・・・・・・3人 ③高齢者が集う場（機会）を作ろう・・・・・・・・・・2人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 災害時の連絡体制について考えよう！</p>	
<p>○組単位の活動を行なっているが、なかなか組でまとまらない。</p> <p>○連絡手段はアマチュア無線などもあるが、新しいものだと衛星携帯電話。これを自治会ごとに持てれば、慌てずに使用できると思う。</p>	<p>○災害発生時、まず組単位で決められた場所に集まる体制が必要。数名集まれば、お年寄りの安否確認や自治会本部との連絡などが可能になる。</p> <p>○地震災害や異常気象による水害を想定した訓練など、自治会と消防団とが連絡体制の確認から協力して活動していけばいいと思う。</p> <p>●各自治会で補助金を活用すれば買えるのではないか。衛星携帯電話も補助の対象になるので、申請してほしい。</p>
<p>テーマ② 防災意識を向上させ、新しい人材を育成しよう！</p>	
<p>○テーマ②「防災意識の向上」は、テーマ①③④の全てに共通すると思う。</p> <p>○佐野は防災意識が低かったので、年々力を入れていて、新しい人材の育成も行っている。今までは役員になった人が自動的に防災委員になり一年で終わりだった。</p> <p>○生活で培ってきたことが防災につながる。見晴台から見ると、地域に長く住んでいる佐野の方が師匠であり先輩。色々な技術や知識を持っている。</p> <p>○小学校校長の立場として、子どもたちに防災意識を高めてほしいと思っている。</p> <p>○昨年の夏休み、PTA主催で「体育館宿泊体験」を実施。一泊二日で、子ども・保護者と一緒に体育館に泊まり、自炊した。参加者は50名程。高学年は近くのお寺で座禅も体験した。すごく暑くて大変だったと思うが、災害には暑いも寒いもないので、そういう意味では経験できてよかったと思う。参加者は非常に喜んでいて。</p> <p>○防災意識の向上に一番役立つこととして、防災士の育成がある。県も市も取り組み始めていて、小学生、高校生も対象にしている。</p> <p>○今年、防災士協会では講義を始めた。テーマは「身近でできる防災訓練の内容」。倒壊した建物から抜け出す方法や、ロープやのこぎりなど簡単な道具を使って皆で訓練をする。</p>	<p>○今年から専門の防災委員長・副委員長という体制を作って、少なくとも3年以上やってもらうことにした。連絡体制、要援護者の救助方法など、全てが把握できるようになるのではないかと。</p> <p>○3年間行なう中で、やるべきことを考えていく。</p> <p>○自分たちができることから始めるといい。訓練の枠にはまらず、第5分団を中心に佐野と見晴台が交流して、お互いに知識を得ることが重要。</p> <p>○自分の命は自分で守ることからスタートし、高学年の子は低学年の子をどう守るか考えることなどが、のちのち社会で役立つと思う。</p> <p>○今年も夏に「体育館宿泊体験」を開催する。これからも継続していきたい。</p> <p>○各町内で、少なくとも数名は防災士を養成することが重要だと思う。</p> <p>○多くの方が防災士になれば、誰かが不在でも誰かがフォローできる。防災士講座をどうPRするか難しいが、多くの方に受講してほしい。</p>

今まで	これから
<p>○実は防災士協会の防災士の有資格者はたくさんいるが、会費を払うのが嫌で防災士をやめてしまう。</p> <p>○運動会等ではよく保健委員さんが体育館で血圧測定を行なっている。体育行事は人を集めるイベントが多い。</p> <p>○子どもが来れば両親・祖父母も参加するので、大人数になる。そういう場を活用して、消防団にポンプ車の展示をしてもらっている。</p> <p>○各地区に自衛隊や消防など現役の方がいると思う。自分も自衛隊に勤めていた頃、担当地区で防災訓練を何回も行なった。</p> <p>○第5分団は年に数回、見晴台地区で防災訓練として、防災設備や消火器の使用方法などの指導を行なっている。</p> <p>○第5分団は現在、定員割れしていて、このままでは休団する可能性がある。団員数は全 23 名だが、普段の行事や訓練に来るのは平均 12 名、月 2 回ある活動に来られるのは 6~8 名。その 6~8 名のうち、10 年以上の方が 6 名いる。来年いてくれればいいが、いなければ数えるだけになってしまう。活動人数が限られると、できることもできなくなってしまう。</p>	<p>○市で防災士の補助金を出すなど、やめてしまった防災士を復活させるのも一つの方法ではないか。</p> <p>●県の防災士の講座を受ける場合、市で補助金が出る。市でもより簡便な防災講座を開いているので、参加を募ってほしい。</p> <p>○校区祭や祭りなど、子どもと若い親が集まっている中で、AED講習や簡単な訓練の見せ場を作るといいと思う。「イベント時に少し訓練をやらせてもらえないか」と連絡してもらえれば、皆に見せるチャンスになる。</p> <p>○自衛隊など、防災訓練の指導経験がある方を地域で捜し、知識を活用できると思う。消防・自衛隊・警察では持っているものが違う。ということも色々と分かると思う。</p> <p>○まず団員確保を優先したい。団員確保の協力をしてもらいたい。</p> <p>○困っているという情報を誰かに伝える場や機会があると、みんなでどうにか協力しようという話になるのでは。</p> <p>○消防団には、防災訓練やどんど焼にも来てもらっている。その場を使って、消防団の危機を住民に伝えるといいのではないか。</p>
<p>テーマ③ 要援護者をどのように助けるか？</p>	
<p>○要援護者の中には、高齢者、障がい者、若年者など色々な方がいる。それをどう把握するかが課題。</p> <p>○要援護者の救助・搬送はまだ絵に描いた餅。</p> <p>○見晴台では組の段階で把握する方法を模索中。</p> <p>○要援護者は、必ずしも全員が自治会に知らせるわけではない。高齢者二人暮らしでも援助を断る場合がある。要支援を強制するわけにもいかず、なるべく声をかけるようにしている。</p> <p>○見晴台の自治会活動後、組で集まり家族構成の紹介を行なった。「うちは認知症の人がいる」などの話が聞けたので、組単位・少人数だと話しやすいと思う。</p>	<p>○要援護者の具体的な救助方法と救助先について考えると、色々な課題が出てくると思う。(佐野小の車椅子対応のトイレの有無、障がいがある人のための設備の有無など)</p> <p>○施設側(救助先)と救助される側(要援護者)の情報をセットで整理しておく必要がある。</p> <p>○要援護者マップができて、搬送ルートが確立する。</p> <p>○本人の意思と、客観的な状況を考えた場合の体制づくり、情報をどうすり合わせるか考えなくてはならない。日常の中で情報をすり合わせていく作業が必要になってくるのではないか。</p> <p>○プライベートな話になるので、気楽に話せるような場、組単位などちょっとした集まりなどで会話をして、情報収集していくといいのではないか。</p>

今まで	これから
テーマ④ 現役世代や役員が不在時の災害対策を考えよう！	
<p>○伊豆佐野保育園では、1～6歳まで61名の園児を預かっている。日中に災害が発生した時は、保育士もいるしどうにかなる。災害発生後の園開設をどうするか、考えていかないといけない。</p> <p>○見晴台は災害時、陸の孤島になりかねない。1,000世帯あるが、ほとんどの方が現役で仕事をしていると思う。日中に災害が発生した場合、残った高齢者の避難方法が心配。</p>	<p>○今年6/24に佐野小で引き取り訓練を行う。保育園が使用できないという想定で、園児を小学校に連れていき訓練を行なう計画を立てている。初めての試みになる。</p>
テーマ⑤ その他	
<ul style="list-style-type: none"> ●三島・長泉・裾野の消防を一緒にするという事で、二市一町の組長で合意をし、先日記者会見を行ない発表した。 ●三島市内の救急車の台数は4台。消防車は常備消防と消防団合わせて26台。 	<p>○校区ではなく、市全体の防災を考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三島消防庁舎に通信司令センターを二市一町で作り上げ、119番司令台とデジタル無線を来年の11月を目処に整備している。 ●今後消防も再編をしていく。この地域では救急車は茶畑から来るようになり、到着時間は早まり救命率はアップすると考えている。活動開始は、28年の4月を予定している。 ●佐野小学校には、太陽光発電と蓄電池の設備を整備する。24時間電気が使用可能になる。 ●三島ゴルフ、湯郷みしまと防災協定を結び、孤立した場合、そこを使用できるようになった。医療等は各自備蓄するよう働きかけてほしい。

【地域の連携】

今まで	これから
テーマ① 佐野と見晴台の協働・協力を進めるには？	
<p>○佐野と見晴台の協働を進めれば、地域がよくなると思う。</p> <p>○見晴台の夏祭りに招待されて、佐野から参加している。</p>	<p>○佐野と見晴台は少し離れているので、何か子どもや老人が一緒になる機会があるといい。</p> <p>○今は役員だけ行く状態だが、今後佐野の親子が見晴台の祭りに参加するような状態になっていくのでは。お互いに参加したらジュースがもらえるなど、交流を仕掛けていけば、楽しくなっているのではないと思う。</p>
テーマ② 子どもや若い世代が楽しめる取組みとは？	
<p>○佐野見晴台子ども会では、自治会の方と一緒に子どもたちと苗を植えて収穫する体験(農園体験)を行なっている。自治会の方も来ているので、世代交流も図れるし、子どもも楽しんでいますが、どうしても出席するのが役員とその子どもばかりになってしまっている。</p>	<p>○農園体験などの活動が、子ども会役員だけではなくもっとたくさんの方に広がり、みんなで楽しめればいいと思う。</p>
テーマ③ 高齢者が集う場(機会)を作ろう！	
※時間の都合により割愛	

今後の地域活動の参考にしてください！